

ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2023年2月3日 16:30～17:30
説明者	コーポレートコミュニケーション部 副部長 兼 IR グループリーダー 高玉 義紀
説明資料	2022年度第3四半期決算の概要 及び 2022年度業績予想の概要

Q&A

■ ライフ&ヘルスケア・ソリューションセグメント

Q1. ライフ&ヘルスケア・ソリューションでの通期計画に前回計画から変更はないが、事業による強弱はあるのか説明して欲しい。

A1. ビジョンケア、農薬を中心に引続き販売は堅調に推移しております。また、交易条件では円高の影響によりマイナスもありますが、国内農薬での値上げ、原料価格の下落による改善もありフラットで見えており、前回見通しから計画を変更しておりません。

Q2. ライフ&ヘルスケア・ソリューションにおける 22 年度の対前年比較での固定費増減をセグメント毎に分けるとどこが大きいのか説明して欲しい。

A2. 農薬の増加が半分以上で次にオーラルケアの増加です。

Q3. ビジョンケアにおける交易条件悪化となっている背景について説明して欲しい。

A3. 原料価格が上昇している中、価格改定に取り組んでおります。しかしながら、今期において価格改定は実施しているものの、期ずれにより交易条件が悪化しております。足元では値上げ交渉は決着しており、今後順次効果が期待できます。都度交渉に時間を要していましたが、しっかりと値上げができていますと認識しております。

Q4. オーラルケアの状況について固定費増加の中身も含め説明して欲しい。

A4. 販売は、中国のゼロコロナ政策の影響を受けながらも前年並みで推移しています。固定費につきましては 20・21 年度と新型コロナウイルスの影響を受け人員やコストを絞り事業運営を行っていましたが、今後の成長に向けた人員や研究費と言った資源投入が増えております。また、欧州を中心とするインフレに対応する賃上げも行っており、労務費単価も増加しております。

■ モビリティソリューションセグメント

Q5. モビリティソリューションの利益水準が上がっているが、その背景について説明して欲しい。

A5. 自動車生産台数回復による数量影響もありますが、22 年度大きく改善しているのは交易条件の改善です。そのうち半分程度は円安に影響です。残りについては価格改定や太陽電池封止材等の高付加価値製品へのシフト等によるプロダクトミックスの改善も寄与しております。また、今年度は PP コンパウンドでの原料下落局面でのフォーミュラによる期ずれのメリットも含まれています。

Q6. 足元の為替（130 円/\$程度）の状況が続いた際の、23 年度以降のモビリティソリューションの交易条件の考え方について説明して欲しい。

A6. 足元の為替が続くようであれば 23 年度は 22 年度と比べ円高になるので為替の影響は出てくると考えています。一方、値上げや高付加価値製品へのシフトは行っていますので、引続き交易条件の確保に向け対応してまいります。

Q7. EV が増えていることによる数量影響や収益構造が変化していることはないのか。

A7. EV 向けの販売も行っていますが、販売数量は全体の中では未だ大きくないので収益構造は大きく変化していません。

Q8. ソリューション事業は低調が続いていると思うが、状況について説明して欲しい。

A8. 新興の OEM との協業による新規アイテム等も進めています。OEM における開発の内製化や足元の欧州等での景気減速等もあり需要は回復しきらず、業績改善は遅れております。

■ ICT ソリューションセグメント

Q9. ICT の主要製品の販売動向について説明して欲しい。

A9. アペルについては、21 年度までのフル生産、フル販売の状況でしたが、それでも全ての需要に対応できない状況だったため、顧客サイドで相当在庫を積んだものと思われ、依然として顧客での在庫水準が高い状態にあり、厳しい状態が続くと想定しています。一方、スマホ関連以外の用途も積極的に展開しており、今後期待しています。イクロスについては、2Q 以降は対前年を下回る成長率となっており、需要期の 3Q でも販売数量は 2Q からほぼ横ばい、4Q も春節の影響もあり 3Q からは販売減を見込んでおります。従いまして、半導体後工程の分野はまだ厳しい状況が続くとみています。EUV ペリクルについては、販売は順調に拡大しており、来年度以降も更なる拡大を期待しています。

Q10. ICT ソリューションの 22 年 2Q (7-9 月) から 22 年 3Q (10-12 月) にかけて増益となる背景について説明して欲しい。

A10. EUV ペリクルの販売が堅調に推移したことにより数量差で増益要因となっております。また、円安及びコーティング・機能材や包装フィルムについては原料価格下落局面における交易条件改善が寄与しております。

Q11. ICT ソリューションの 22 年 3Q (10-12 月) から 22 年 4Q (1-3 月) にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A11. 円高に推移することによる交易条件の悪化及び、IFRS の会計基準により租税公課の計上時期が 4Q 一括となっている等の要因で費用が増加しています。

■ ベーシック&グリーン・マテリアルズセグメント

Q12. ベーシック&グリーン・マテリアルズの 22 年 2Q (7-9 月) から 22 年 3Q (10-12 月) にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A12. ナフサ価格下落により在庫の評価及び販売価格フォーミュラの期ずれを合わせた影響による交易条件が悪化しました。

Q13. ベーシック&グリーン・マテリアルズの 22 年 3Q (10-12 月) から 22 年 4Q (1-3 月) にかけて減益となる背景について説明して欲しい。

A13. 数量及び交易条件については横ばいを見込んでおります。固定費については、IFRS の会計基準により租税公課の計上時期が 4Q 一括となっている等の要因で費用が増加しています。

Q14. エチレンラッカーの稼働状況について説明して欲しい。

A14. 3Q、4Q ともに 8 割弱の低稼働です。

Q15. エチレンラッカーが低稼働となっている背景について説明して欲しい。

A15. 景気後退懸念による消費が弱いことが影響していると考えております。また、ポリオレフィンにおいては、中国市場における需要が弱く海外市況が安い為、通常なら中国に向かう輸出品が一部国内に入ってきていると考えております。景気回復及び中国の需要が戻ってくれば稼働は上がってくると見込んでおります。

Q16. ビスフェノール A の市況状況について説明して欲しい。

A16. 2Q から低水準のспレッドがほぼ横ばいで推移しており、3Q から4Q への損益増減に与えるインパクトは軽微です。

Q17. シンガポールフェノール事業の株式譲渡の状況について説明して欲しい。

A17. 予定通り進んでおり、競争法の認可を待つのみです。

Q18. ベーシック&グリーン・マテリアルズの足元環境が厳しい中でどの様に収益改善を図るのか、また構造改革についても進捗があれば説明して欲しい。

A18. しっかりと再構築を行っていくことが重要だと考えています。23 年度は国内 PTA の生産停止やシンガポールのフェノール事業譲渡によりボラティリティは低減されます。また、22 年度下期は原料価格下落による在庫評価損があり、原料価格が安定すれば収益は改善いたします。数量面においては需要の動向次第ではありますが、回復を期待しております。需要が戻ってくれば安定的に一定規模の黒字を確保できるビジネスだと認識しております。TDI の再構築につきましては継続して検討しております。

■ 全社

Q19. 株主還元への方針について改めて説明して欲しい。

A19. 総還元性向 30%以上、DOE3.0%以上を基本方針として、引き続き継続的かつ安定的な配当を重視してまいります。

Q20. CF 計画における前回予想からの増減について説明して欲しい。

A20. 営業 CF は原料価格の下落及び在庫削減等により運転資本が改善しております。投資 CF につきましては、一部見直しを実施したことにより減少しております。

以 上